



さんが

第一〇七号

令和 二二 年

西暦 二〇二〇年

秋 彼岸 九月 月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三二-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net



コロナ禍も長くなりました。

このところは、感染した人たちへの嫌がらせのニュースも、さらに耳にするようになり、やるせない気持ちもいや増します。

なぜこういう事件が起こるのでしょうか。私たちは他人に迷惑をかけてはいけないのだ、というプレッシャーが、その嫌がらせをさせてしまうのでしょうか。

とはいえ、迷惑をかけないことを突き詰めると、私たちは動けなくなってしまう。私たちは、迷惑をかけるに生きることができないのです。

もちろん、だからといって、わざわざ迷惑をかける生き方を、勧めるわけではありません。

私がここで大切だな、と思うのは、迷惑をかけずに生きられないなら、お互いに、どこまでも謙虚に接する必要があるのだということです。それは、私たちの力には限界があると、静かに受け止める心持ちです。

私たちの力には限界があるとわかると、不安はやわらぎ、心は救われます。

なぜなら、できることを精いっぱいしよう、という覚悟が生まれるからです。

それでも不安をやわらげるには、時間はかかるかも知れませんが、しかし、必ず効きます。むしろ、ふだんからこういう心持ちを覚えておけば、ワクチンのように私たちの心を守ってくれるでしょう。

そして、図らずも迷惑をかけてしまった人に対しても、穏やかな気持ちで接することができるよう。

疫病退散



今年の夏より続いている薬師堂の工事が、いよいよ佳境に入ってきました。

今年中には完成の予定です。また建物の工事にあわせて、仏像の修理もしていただいています。



工事中の薬師堂内。

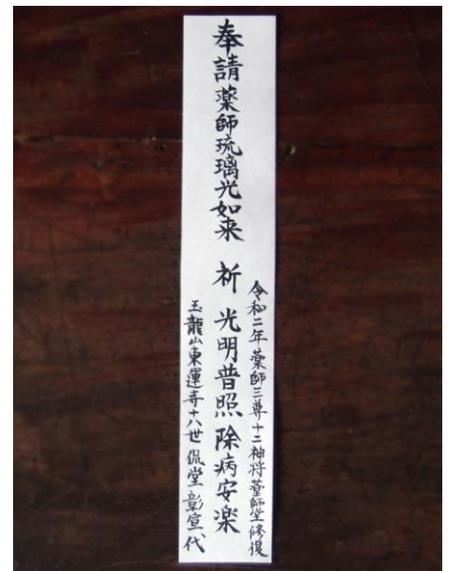
傷んでいたところはすべて補修され、あたらしい壁や柱で、美しく整えられます。

お薬師さまと、お薬師さまをお守りする、菩薩さまや十二神将さまが、ふたたびここにお戻りになります。どうか楽しみにお待ちください。



修理してくださっている工房にて、お薬師さまの胎内に、祈願札をお収めしました。

願いが届き、今回のコロナ禍も収束するように願っております。



祈願札に書かれた「光明普照除病安楽」は、『薬師如来本願経』などに登場する、お薬師さまの「十二誓願」のうち、代表的な二つを採ったものです。

手探りのなか過ごしたお盆でした。

七月の施食会では、お手伝いのお寺さんを少なくし、堂内にアルコール消毒剤を置き、間隔をあけてお座り頂きました。

八月に入って、お墓参りの方は、分散してお越しになっていましたようです。

棚経でも、マスクと消毒に気をつけました。

あたたかくお迎えくださったみなさまには、あらためて厚くお礼申し上げます。

ありがとうございます。

東運寺



↑ LINE



↑ ホームページ



東運寺ホームページは→

京都 東運寺

検索